



REAL RACING

●2016年9月10日(土) Race1 公式予選／Race1 決勝レース [30Laps]

天候：晴れ 気温：32°C／路面温度：42°C(15:30時点)

コースコンディション：ドライ

観客：4,000人(主催者発表)

開催サーキット 岡山国際サーキット (岡山県美作市)

レーシングコース (1周 3.703 km)

9月10日(土)、11日(日) 岡山県の岡山国際サーキットにおいて、2016年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第5戦が開催された。

今大会は、4月に発生した平成28年熊本地震の影響で、10月からの再開に向けて復旧工事を続けるオートポリスサーキットの代替戦となる。土日両日に予選と決勝レースが行われる2レース制で、Race1、Race2共に獲得できるポイントは通常の半分となる。

同サーキットで開催された第2戦で2台揃っての表彰台を獲得したリアルレーシングは、更に上のポジションを目指し、第5戦のレースウィークに臨んだ。

10日(土) 朝から秋めいた空が広がる岡山国際サーキット。第5戦 Race1 の決勝に向けて計時予選が午前11時から20分間でスタート。開始早々、コースインし、タイヤの感触を確認しつつアタックに入る#10 塚越広大と#11 伊沢拓也。だが、開始5分を経過したところで、他チームマシンがスピンし、コース上にマシンをとめた為、赤旗中断となる。コースクリアになったのは11時15分。マシンの調整を行いつつ、予選残り時間が7分を切ったところで、#10 塚越がコースイン。他車の先陣を切り、これまでのトップタイムを塗り替えた塚越は、1'14"349というベストタイムを叩き出す。ここから Race1 予選の戦いが更に激化する。その結果、#10 塚越が Race1 の決勝を5番手から、#11 伊沢が1'15"033のタイムで18番手からスタートすることとなった。



REAL RACING

迎えた同日の決勝。タイヤ交換義務もなく、レース周回数が30周というスプリントレースとなるRace1の開始時刻は15時30分。だが、スタート直前にポールポジションのマシンがグリッド位置を誤り、後続車両も次々にスタート位置を誤るというトラブルが発生。15時54分に再度フォーメーションラップが行われ、計28周となったレースがスタートした。ポールポジションのマシンがスタート遅延の原因車両として最後尾スタートとなつたため、#10塚越と#11伊沢は実質ポジションを一つ上げてスタートを切った。#10塚越はスタート直後、後続車両にオーバーテイクを喫し、7番手まで順位を落とすが、その後のバックストレートで、再度1台のマシンをパスし、6番手でオープニングラップを終える。一方、#11伊沢はオープニングラップで2台をパスし、16番手に浮上。5周目に入り#10塚越は前車1台をパスし5番手に順位を戻す。この後、コース上は膠着状態となり、順位の変動が見られなくなる。SUPER FORMULAマシンにとって、オーバーテイクが容易ではないといわれる、この岡山国際サーキットは、渾身の走りを見せる塚越、伊沢にとってもチャンスを見つけることは大変困難であった。28周という短い周回数を終えた2台は、#10塚越が5位、#11伊沢が16位のままチェックを受けて、Race1の決勝を終了した。この結果、塚越は5位にてポイントを獲得することとなった。

●2016年9月11日(日) Race2公式予選／Race2決勝レース [51Laps]

天候：晴れ 気温：33°C／路面温度：41°C(15:00時点)

コースコンディション：ドライ

観客：6,000人(主催者発表)

昨日に引き続き好天となった岡山国際サーキットでは、第5戦Race2の予選が行われた。Race2の予選はノックアウト方式となり、Q1で上位10台に残ったマシンはQ2で最終決勝グリッドを決めることとなる。20分間のQ1が開始するとともにユーズドタイヤでコースインした#10塚越と#11伊沢は、マシンや路面のコンディションを確認しつつアタックを開始する。その後、マシンを微調整するため一旦マシンをピットに戻し、残り時間が7分を切るところで、ニュータイヤに履き替えて再度コースインする2台。渾身のアタックを見せるも、結果は#10塚越が1'15.952で19番手、#11伊沢が1'15.652で16番手となり、悔しくもQ2進出を逃すこととなった。



REAL RACING

同日の 15 時。Race1 決勝時に比べ日差しが強くなったコンディションの中、レース周回数は 51 周、タイヤ交換が義務付けという前日とは全く違う条件で争われる Race2 の決勝が開始された。オープニングラップの 1 コーナーは混乱もなく、2 周目に入ろうというところで、#11 伊沢がピットイン。戦略的にタイヤ交換義務を早々に終えることで、順位アップを目指し、再度マシンをコースに戻す。一方、塚越も 12 周の終わりでピットイン。ここから REAL RACING の 2 台は、テクニカルコースと呼ばれるこのコースでタイムアップし続け、順位を上げる。その結果、29 周目を終えた時点で、#11 伊沢が 10 番手、#10 塚越が 14 番手までポジションを上げることになった。30 周目には他チームのマシンがスピンし、ポジションを共に一つずつ上げた。その後、スピンしたマシンがコース上にマシンを止めた為、セーフティカーが導入されることとなり、イエローフラッグが掲出される。34 周目が終了すると、レースは再スタート。セーフティカーの退出と共に、気迫の走りで前車両をブッシュし続ける#10 塚越と#11 伊沢。40 周目が終了すると、イエローコーションの最中に、ピットアウトするマシンを追い越した他チームのマシンがドライブスルーペナルティを消化し、#11 伊沢が 8 番手、#10 塚越が 13 番手となる。残り 10 周を切り、マシンの状態もよく、一つでも上を目指し、諦めない走りを魅せた 2 台は#10 塚越が 13 位、#11 伊沢が 8 位でチェックを受ける。この結果、#11 伊沢は、ポイントを獲得することになった。

岡山国際サーキットで行われた第 2 戦で表彰台を獲得し、同サーキットで開催された今大会の第 5 戦はチーム、ドライバー共に士気高く迎えました。Race1、Race2 共にポイントを獲得することができましたのは皆さまの変わらぬご声援の賜物です。

次戦も、予選での上位を目指し、決勝では REAL RACING らしいチーム力をフル稼働して戦って参ります。

次戦第 6 戦は宮城県・スポーツランド菅生にて行われます。

皆様の応援をよろしくお願いします。